

日本音楽知覚認知学会平成30年度秋季研究発表会プログラム

(作成日：平成30年11月2日)

12月8日(土)

10:00~12:00	理事会 (日本音楽知覚認知学会理事のみ)
-------------	----------------------

12:30 受付開始

13:00	開会挨拶		
-------	------	--	--

13:05	ポスター口頭説明 司会：小野健太郎 (広島大学)	ポスター第一発表者全員 (下記の順番で実施)	ポスター発表の方に冒頭、口頭で簡単に発表内容を紹介していただきます。 (発表者の方は各1分で口頭説明をお願いいたします。スライド等は使用できません。)
-------	--------------------------------	---------------------------	--

13:15	ポスター発表  発表者は下記の時間帯は必ずポスターの前で発表をお願いします。  奇数番号： 13:15~14:05  偶数番号： 14:05~14:55  (責任時間各50分)	<JSMPC2018(2)-1>	○恵谷隆英, 三浦哲都, 向井香瑛 (東京大学大学院・総合文化研究科), 進矢正宏 (広島大学大学院・総合科学研究科), 藤井進也 (慶應義塾大学・環境情報学部), 工藤和俊 (東京大学大学院・学際情報学府)	集団同期に対するグルーブの影響
		<JSMPC2018(2)-2>	○高瀬真里奈 (同志社大学大学院・文化情報学研究科), 正田悠 (神戸大学大学院・国際文化学研究科), 阪田真己子 (同志社大学大学院・文化情報学研究科)	人生における「忘れたい音楽」の世代間比較
		<JSMPC2018(2)-3>	○池上真平 (青山学院大学・教育人間科学部)	拍分割が聴取者の音楽体験に及ぼす影響 - テンポと分割数についての検討 -
		<JSMPC2018(2)-4>	○松永理恵 (神奈川大学・人間科学部), ハルトノビトヨ (中京大学・工学部), 横澤宏一 (北海道大学大学院保健科学研究科), 阿部純一 (北海道大学・名誉教授)	音階スキーマの発達過程における文化普遍的特性と文化固有的特性：欧米の子どもと日本の子どもの比較
		<JSMPC2018(2)-5>	○田中さなえ, 三雲真理子 (梅花女子大学大学院・現代人間学研究科)	小集団での打楽器演奏が自己肯定感と対人ストレスに及ぼす影響
		<JSMPC2018(2)-6>	○藤井菜摘 (広島大学大学院・教育学研究科)	コンテンポラリーダンサーの動きの癖と音楽との関わり
		<JSMPC2018(2)-7>	○富士直斗 (九州大学大学院・人間環境学府), 橋瀬和秀 (九州大学大学院・人間環境学研究院), 中分遥 (九州大学大学院・人間環境学研究院, University of Oxford・School of Anthropology and Museum Ethnography)	歌唱音声の音高に対する乳児の選好について
		<JSMPC2018(2)-8>	○Shimeng Liu, Yoshitaka Nakajima (Kyushu University・Department of Human Science), Mark A. Elliott (National University of Ireland Galway・School of Psychology)	Pause Duration Influences Impressions of Speech Style in English Public Speaking
		<JSMPC2018(2)-9>	猪本修, 萩野日向子 (兵庫教育大学)	トランペット合奏時の音色変化と倍音成分の位相同期

14:55	ポスター撤収・休憩 (10分)		
-------	-----------------	--	--

15:05	口頭発表1 座長：松永理恵 (神奈川大学)	<JSMPC2018(2)-10>	◎呂景儀 (九州大学大学院・芸術工学府), 中島祥好 (九州大学大学院・芸術工学研究院)	31平均律についての研究	31平均律は1オクターブを31等分に分割した音律で、いままで多用される12平均律と多少の違いがある。音楽知覚認知分野の研究者たちは様々な研究をしてきたが、先行研究の分析対象は大体12平均律である。先行研究の補充とし、本研究はプローブ音法を用い、31平均律を通じて音楽多様性を探ることが目的である。
15:35		<JSMPC2018(2)-11>	◎高橋純(神戸学院大学・人文学部), 津崎実(京都市立芸術大学・音楽学部)	クラシック音楽における歌声の知覚評価 ~プロの歌手と音楽大学学生との歌声の比較~	クラシック音楽におけるプロの歌手と、音楽大学で声楽を学ぶ学生に歌唱課題を与え、その歌唱を録音した。それらを用いて知覚評価実験を行い、プロの歌手と学生の歌声において、聞き手がどのような評価をするのかを調べた。
16:05		<JSMPC2018(2)-12>	亀川徹 (東京藝術大学・音楽学部), 丸井淳史 (東京藝術大学・音楽学部), 細谷耕佑 (三菱電機・情報技術総合研究所), 木村勝 (三菱電機・情報技術総合研究所)	センタースピーカの有無による音像定位と音像幅の知覚の違い	センタースピーカの有無と聴取位置の違いが、音像定位と音像幅の知覚にどのような影響を与えるか、アナウンスやバンドパスノイズを用いて比較をおこなった。その結果、センタースピーカがあることで、聴取位置が中央からずれても音像定位や音像幅の変化が少ないことと、中低域の方が高域よりも音像幅を広く感じる傾向が示された。
16:35		<JSMPC2018(2)-13>	小堀聡 (龍谷大学・理工学部)	タブラチュア譜と五線譜の記憶過程の比較について	筆者らはタブラチュア譜と五線譜の記譜法の違いが認知過程に及ぼす影響について検討しているが、ここでは、ギターを対象とした記憶実験により、これら2つの記譜法の楽譜に対しての記憶過程を比較し、検討した。

17:05	休憩 (10分)		
-------	----------	--	--

17:15	レクチャーコンサート  オーガナイザー： 小堀聡 (龍谷大学)	<JSMPC2018(2)-14>	小出智子 (リュート奏者)	リュートの楽譜と演奏—リュート奏者はいかにしてタブラチュア譜を読んで演奏するのか	一般的にリュートの演奏にはタブラチュア譜が使用される。タブラチュア譜では、通常の五線譜とは異なり、楽器固有の奏法を文字や数字で表示する記譜法を用いる。ここでは、タブラチュアの利点と欠点を踏まえつつ、リュート奏者はどのようにタブラチュア譜を読み、演奏していくのか、実際の演奏を交えながら解説する。
-------	---	-------------------	---------------	--	---

18:30	懇親会 (龍谷大学深草キャンパス内・食堂)		
-------	-----------------------	--	--

12月9日(日)

9:30		<JSMPC2018(2)-15>	稲田雅史(九州大学・芸術工学府), 稲田響希(東京都市大学・メディア情報学部), 高田正幸(九州大学・芸術工学府)	音楽によって喚起される感情と音楽的特徴の関係について	音楽作品の中には、聴くことによって多くの人が共通した感情が喚起される曲が存在することが考えられるが、その喚起された感情と音楽的特徴の間には関係性があると考え、それを明らかにすることを試みた。
10:00	口頭発表2 座長:大澤智恵 (武庫川女子大学)	<JSMPC2018(2)-16>	◎岡野真裕(立命館グローバル・イノベーション研究機構), 紅林亘(滋賀大学・データサイエンス教育研究センター), 進矢正宏(広島大学大学院・総合科学研究科), 工藤和俊(東京大学大学院・情報学環・学際情報学府)	集団リズム同期課題における参加者間結合の推定	30人でのリズム維持課題を実施し、位相・周期修正のモデルから、参加者間結合の構造を推定した。全体のテンポが遅くなる局面では、参加者間の同期を困難にする方向へタイミング調節を行う者がいることが明らかになった。
10:30		<JSMPC2018(2)-17>	八木美紀(九州大学大学院・芸術工学府), Gerard B. REMIJN, 中島祥好, 上田和夫(九州大学大学院・芸術工学研究院)	日本人の色聴共感覚者と非色聴共感覚者における音楽-色感覚についての研究	音楽-色感覚への文化圏や色聴共感覚の影響を調べる実験を行い、長調の速い音楽が彩度や明度が高い色と関連するという先行研究の結果は再現され、テンポの影響が小さくモードの影響が大きという違いが見られた。
11:00		休憩			
11:15	口頭発表3 座長:池上真平 (青山学院大学)	<JSMPC2018(2)-18>	山下英吾(九州大学大学院・芸術工学府), Gerard B. Remijn, 中島祥好, 上田和夫(九州大学大学院・芸術工学研究院)	絶対音感保有者の音高知覚と音楽経験について	絶対音感保有者の音高知覚特性を明らかにするため、日本人音楽経験者(非絶対音感保有者を含む)を対象とし絶対音感テストとアンケートを実施した。幼少期の音楽訓練がピアノ音の音名同定に影響を与えていること、絶対音感テストにおける女性の成績が男性よりも有意に高いことが示唆された。
11:45		<JSMPC2018(2)-19>	水野伸子(愛知東邦大学・教育学部), 津崎実(京都市立芸術大学・音楽学部)	幼児期における拍知覚の発達:同期度による検討	音楽聴取時に付加した手拍子による打拍記録を解析し、3歳児・4歳児・5歳児における拍知覚の発達を検討した。打拍率、打拍同期度、1拍あたりの手拍子発生率から検討した結果、段階的に拍を知覚していく過程が明らかになった。
12:15		<JSMPC2018(2)-20>	大澤智恵(武庫川女子大学・音楽学部), 澤井賢一(東京大学大学院・法学研究科), 津崎実(京都市立芸術大学・音楽学部)	ピアノ演奏における正確な運指のための視覚・聴覚・触覚情報の役割	ピアノ演奏中にキー位置に関して得られる、視覚・聴覚・触覚情報について考える。スケール、アルペジオ、演奏者のレパートリー楽曲の抜粋の演奏時に各知覚情報の得られる度合いを操作し、その貢献度合いを演奏エラー分析から検討した。
12:45	授賞式および閉会挨拶(13:00閉会予定)				

口頭発表 講演時間:発表20分, 質疑応答8分, 交代2分

各発表者の前についている記号は下記を示します。

- ◎:研究選奨 選考対象発表
- :ポスター選奨 選考対象発表